

「これからの中社会と地域コミュニティの重要性」

渋沢 寿一

『よい地域とは』

- ・ 地域とは、「家族のあつまり」
- ・ 100の家族があれば100の幸せがある

「明日は良くなるかも知れない」そんな願いを実現すべく努力する

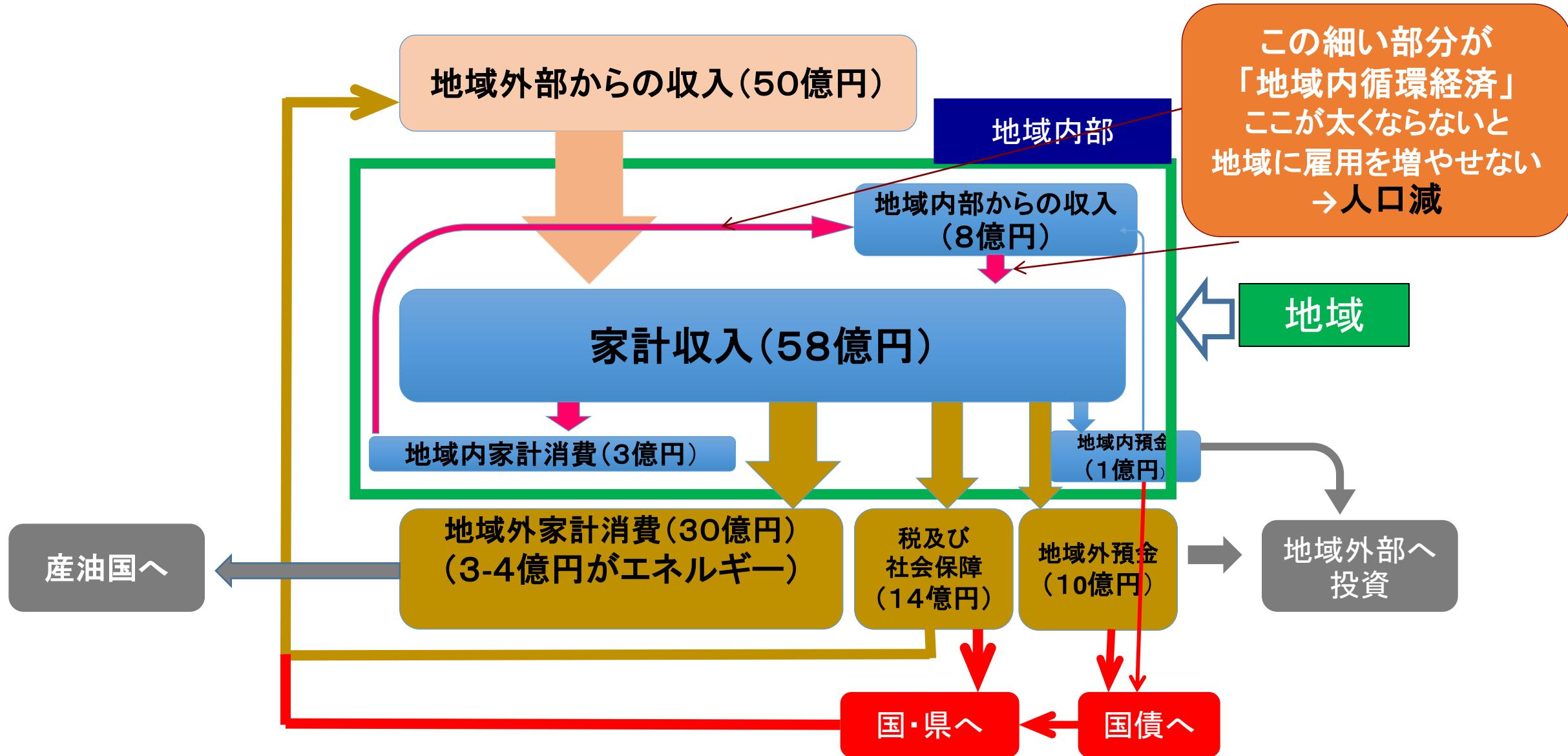
- ・ 個人で解決すること、家族や友人がサポートすること、
全員で考え解決すること、地域で解決すること（**自治**）
- ・ 地域だけでは、できないことを「行政」が行なう

家族の幸せを実現するための、**地域づくり**

『地域活性化』の現場での気づき

- ・産業の振興（生産性の高い林業・農業へのアプローチ…）
 - ・仕事場づくり • 農業団地づくり
 - ・工場誘致 • 施設（ショッピング・モールやテーマパーク）建設
 - ・ブランド化（地域特産品、農産物、コメ、…）
 - ・グローバルマーケットへのアプローチ
 - ・ネットショップの開設
 - ・観光振興 • ふるさと納税
- しかしながら、
活性化しない地域

平均的な中山間地域、3000人集落(豊田市旭地区)のお金の循環



◆地域内でのお金の循環は殆どない。

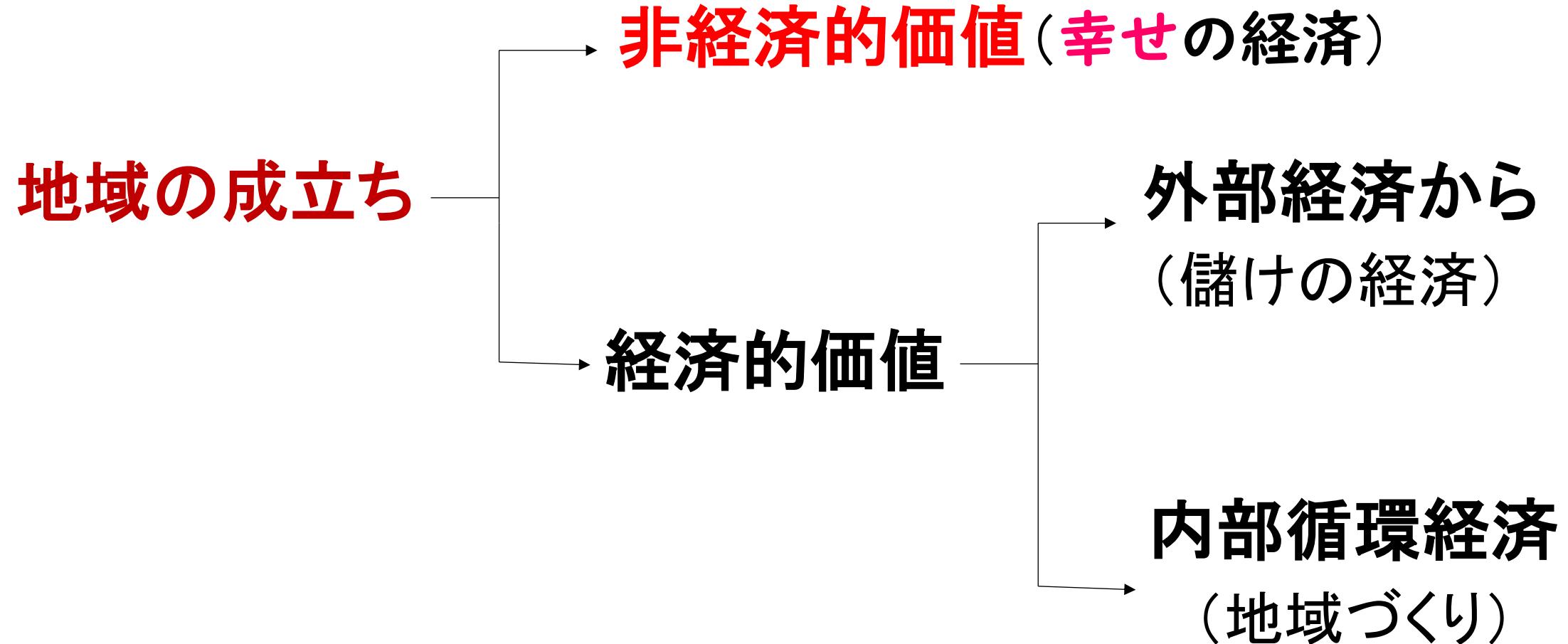
(総理府統計局消費動向データ)

里山資本主義(木質バイオマス)の学び

- 木は、かさ張る、汚い、重い（煩わしい）→ 地域内消費がベスト
- ボイラー選定などの利用方法より → 収集・運搬システムが重要
(誰が、いつ、いくらで、どのように・・・地域で決定、それが地域の自治)
地域の価値を、地域住民が決めること
- 地域内の連携が不可欠 → エネルギー・素材事業のように見えて、
内実は、地域づくり事業（つながりづくり）

非経済的価値 (幸せの経済・経済統計にあがらない)

- 食料・エネルギーの自給、採集、交換 (自分を養い、分け合う)
 - 結、普請、共同作業 (草刈、お宮の維持、田植え、屋根吹き…)
 - 見守り、人と人のつながり、寄り合い
 - 祭り (社会教育、人材の育成・確保) ⇒ 関係性づくりの仕組み
 - 水の共同管理、共有林(財産区)の管理
 - 文化 (神楽、農村歌舞伎…)
 - 自然、景観、風景
 - 心の置き方(風習、風土、価値観)
 - 郷土愛、誇り
 - 先祖、神様、祖靈、山の神、庚申…
- 共感の範囲(地域)、個人の幸せ、を構成する重要な要素



「自治とは、お役ではない！」

地域で**価値を共有する仕組み**

共有する価値の中には、

非経済的価値も、地産品の価格も含まれる

いわば**共感を生み出す仕組みが自治**

そして「**地域とは、行政単位ではない！**」

「自治」を壊した「無縁社会」

「無関心」「無視」「面倒くさい」 = 今だけ・お金だけ・自分だけ

「愛」の反対は、「憎しみ」ではなく「無関心」 (マザー・テレサ)

有限な地球で、戦争のない、平等な、持続可能な社会をつくるには、

人と人、人と自然、世代と世代が、つながること

→ つながるには、お互いが関心と共感を持ち合う社会

コミュニティー（地域社会）

「経験」と「場の共有」が**共感**を作る

そして「その共感が**地域**をつくる」

共感の範囲 (動物学者 山際寿一、元京大総長)

類人猿の中で「**共感**」を持つのは、**人とゴリラ**…食卓を囲み、分け合って食べる

ゴリラの共感の範囲…15頭(サッカー11名、ラグビー15名、**肉体**の共鳴集団)

会社経営の共感の範囲…150人(**言語**を持つ人間、社員もその家族も一家)

地域の共感の範囲…1000-3000人(小学校区ー中学校区、**言語**を持つ人間が、**システム**を持つと、
共感できる)

共感の薄れる現代社会…食卓を囲まない家族、SNSの噂話でつながるPTA、

祭りの消滅、地域コミュニティーの崩壊→**ゴリラ**から退化し、**サル化**する**人類**

地域は**共感**の範囲

持続的に、世代を跨いで、
自治を支える心と仕組み

世代と世代をつなぐ

**仕事・つとめ…祭り、結い、山仕事
集落の自治**

稼ぎ…家族を食わせる、山稼ぎ





祭りは「社会教育」の場

- ・ 社会教育 … その風土の中で持続的に生きる、
知恵と考え方の伝承が**祭り**。（文化の伝承）
(身体で)
- ・ 学校教育 … 何処の世界でも使える普遍的知識。
知識と課題の抽出・解決の手法を
教える。 （文明への対応）
(頭で)
- ・ 家庭教育 … 被る、人と人の基本的コミュニケーションの
決まりごとを刷り込む。
非認知的能力。 （体験、愛・赦し・慈しみ）
(心で)

薬師さんの祭り(4月8日)

- ① お社で山神様を迎える神事。顔役と神職、巫女で執り行われる
(祝詞、神楽舞、白餅、お神酒、11時-12時)

- ② 公民館に「山神さん」をお連れする⇒
湯立ての神事(13時-18時)
田んぼの畔の土で釜戸、鉄鍋に堰の水、薪で火をおこす
・神職の祝詞、巫女舞、去年の稻ワラで鍋の湯をまわし、
立ち昇る湯気を、各戸の戸長が吸い込む。
× 70戸(セット) ⇒ 山神と人が一体に

- ③ 直会(村の政治の場、18時-20時過ぎ)

- ④ 翌日から、稲作の開始 ⇒ 農作業が変わると祭りは…

集落は何によって結びつくのか

過疎にならない村「高根」(新潟県村上市)



高根の位置





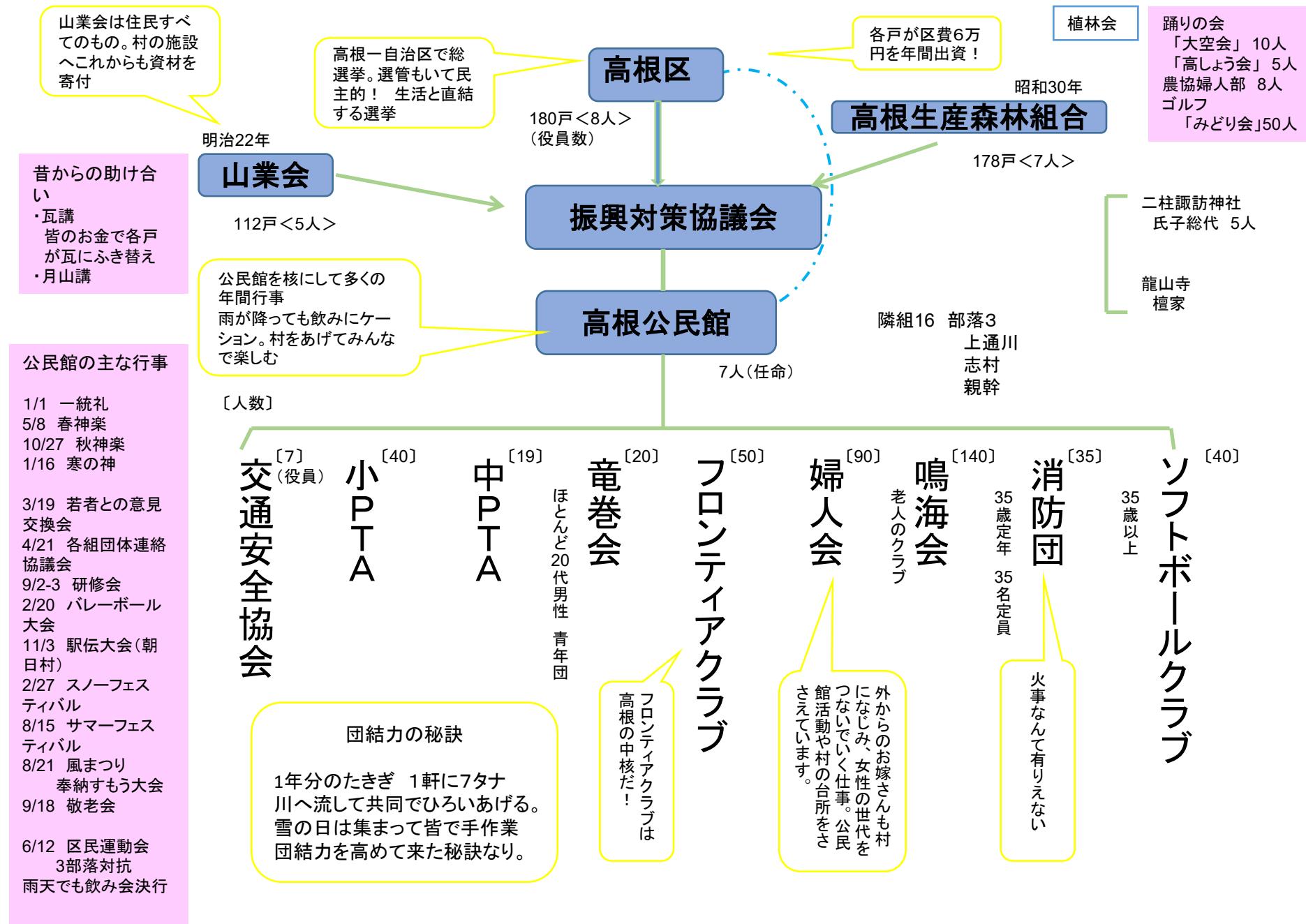
新潟県村上市高根地域

- 地域概要

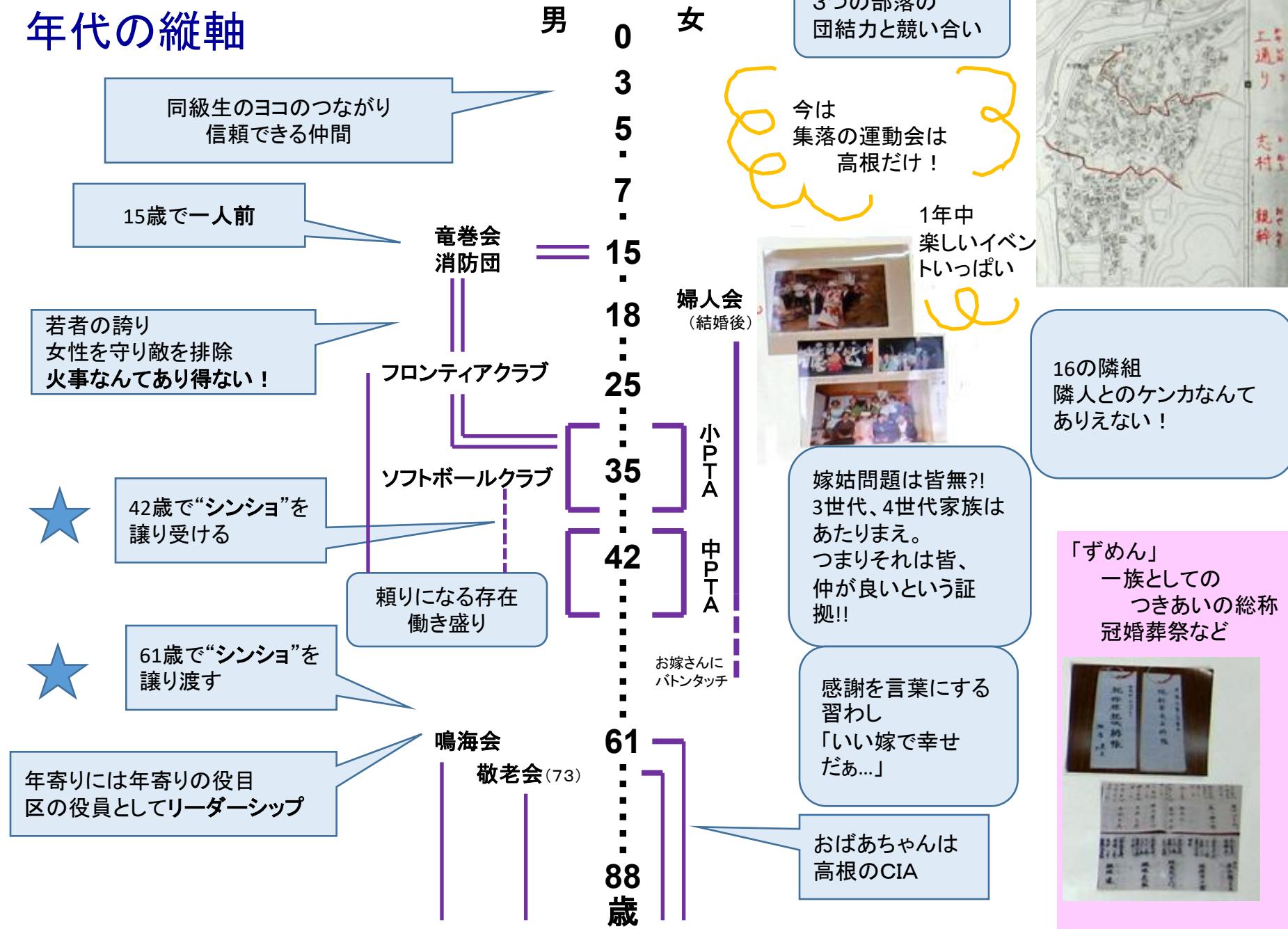
- 人口約500人
- 戸数170戸
- 世界有数の豪雪地帯
- 豊な自然の多様性
- 10,000町歩の共有林、100町歩の棚田
- 強固なコミュニティー



究極の特区！ 2015年日本より独立か!!



年代の縦軸



風の盆の相撲

風の盆・・・お盆行事の1週間後

稻の開花、結実の時期に、
大風(台風)が吹かないことを祈る。

村の男子全員参加の奉納相撲

村人全員参加の直会(なおらい、優勝者が村人全員をもてなす)





高根の奉納相撲

風の盆が意味するもの

村(コミュニティ)が結束するための「決まり(掟)」…

合理性、経済性、効率性、民主主義、の外にある概念

持続可能な社会の概念と言えるのか!?

外にある概念とは…人の関係性の密度

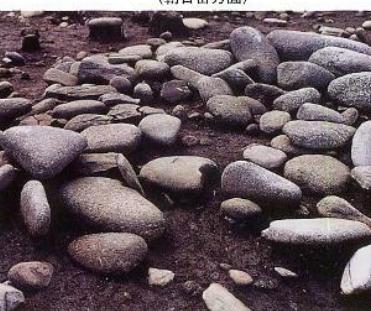
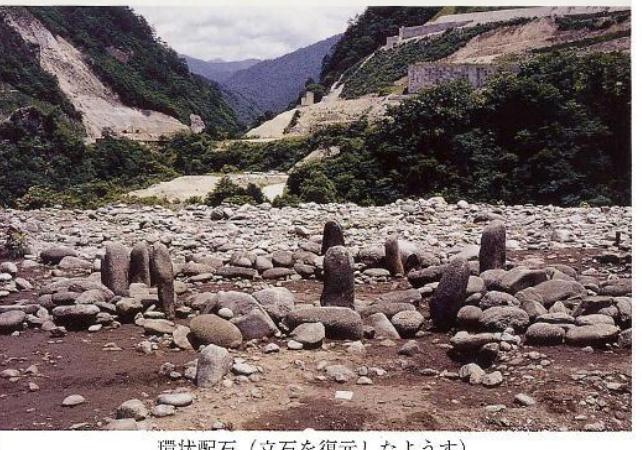
「共感」



新潟県村上市奥三面集落(おくみおもて)







…アチャ平 遺跡

5000～3500年前

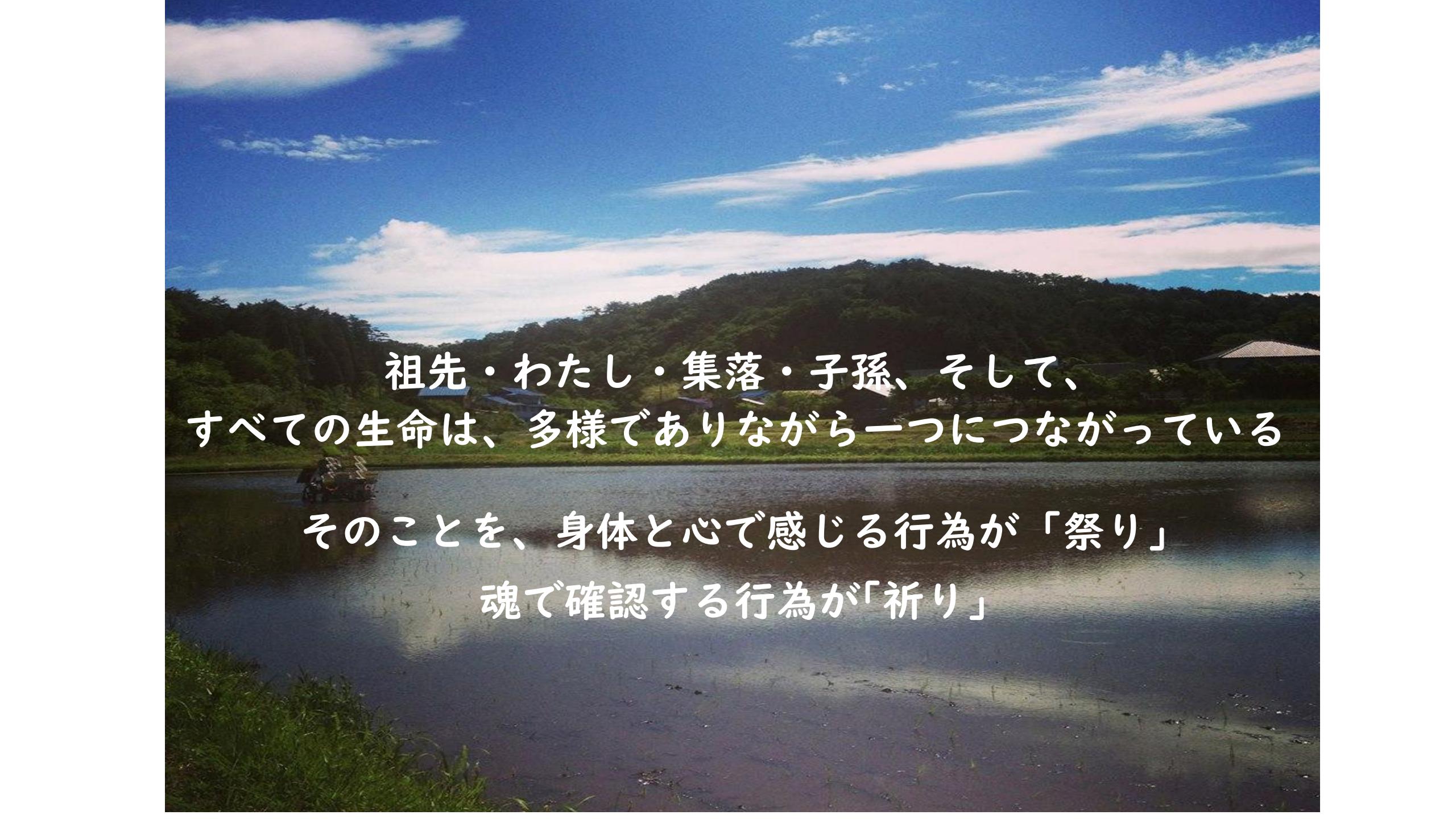
20戸の竪穴住居群

…奥三面集落跡地









祖先・わたし・集落・子孫、そして、
すべての生命は、多様でありながら一つにつながっている

そのことを、身体と心で感じる行為が「祭り」
魂で確認する行為が「祈り」

人は何故、群れて暮らすのか!?

自然と共に生きたコミュニティ

(農耕の民は何故、共同体を作ったか)

農村から生まれた都市

最初に農山村ができた(自給圏、食料・エネルギー・福祉・・・)

無理に人を集めてつくられた都市

統治者(権力)の発生→町の形成

農村からのあぶれもの + 農村からの徴用 + 地方の豪族を呼び寄せる

雑役(雇用)の発生 + 敗残者 + 身障者 → 河原者(芸能、庭師・・)

計画的な都市の誕生(江戸、武家屋敷68% + 寺社16% + 商人町16%)

「農村」の理論とは

明治初年、就労人口3300万人のうち、3000万人が農民(百姓)

・自然(季節)は待ってくれない！自然の変化から逃げられない

(春→夏→秋→冬)誰の上にも、季節は平等。皆が、季節に合わせて暮らすのが「農村」

・暮らしのテンポは村人全員が同じ。村は同業者の集まり。

・地域生態系からも逃げられない…(虫は村中飛び回る。1人だけ無農薬は覚悟が必要)

・農地を持てば、コミュニティーからは逃げられない。四季の移ろいに合わせるには協働。

地域コミュニティーに対し、心を開く、暮らしを開く、覚悟が必要

(ねばり強さ、勤勉さの資質を育む)

歩調を合わせた村の暮らしから、共同体の崩壊へ

同業者集団だから成り立つ慣習→

稼ぎ(役人、教諭、軍人、出稼ぎ・)の発生、太陽暦の導入→

公役の免除、代理出席→金銭授受での解決→

コミュニティー維持が困難に→ 若者の参画、祭り、隠居などの制度改革

親方・子方の相補関係→貧しさから抜けられない子方→

子方の独立(農地解放)→公共事業、伐採、養蚕(お金の稼ぎの発生)→

権利の主張→離村(人口の減少)→共同体の崩壊

村八分(葬式と火事以外は付き合いを断つ)

- ・共同体の崩壊を食い止めようとする力 ⇔ 法律の普及、権利の主張

- ・八分にされた者

掟に従わないわがまま者、公役を務めないもの、

祝儀不祝儀の付き合いをしない者、犯罪者、姦通した者

共有山を勝手に利用した者、他人の田畠を荒らす者、

休みの日に休まない者

世間体(結合の呪縛と解放)

「**有難さ**」と「**煩わしさ**」の塩梅(あんばい)を探し続けた日本人

都市での出世、故郷に錦を飾る→「ざまー見ろ！」でも、切れない臍の緒
群れから離れる(木地師、炭焼き、漁民、芸能人、ヤクザ、出稼ぎ・・)

- ・生きることが難しい時→結束、絆
- ・生きることが安易な時→自由、個人

社会保障と消費税、都市と地方、世代と世代、金融資本と実体経済…

自然の中で「生きる」ということが、最優先だった日本、

そこに登場した「**資本主義**」(**お金**を中心とした社会の登場)